

目指す看護の達成に向けた看護部長としての実践

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-12-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 福井, 純子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032629

氏名：福井 純子
学位の種類：博士（看護学）
学位記番号：甲 第42号
学位授与年月日：令和2年3月23日
学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当
論文題目：目指す看護の達成に向けた看護部長としての実践

論文審査委員：主査 教授 池田 真理
副査 教授 小川 久貴子
副査 教授 青木 雅子

論文内容の要旨

1. 背景

近年、看護部長は看護部門の統括に留まらず、病院経営や地域の医療において役割発揮が期待されている。一方、看護部長が「何を考え何をしているか」という認識と実践は明らかになっていない。

2. 目的

目指す看護の達成に向けた看護部長としての実践を明らかにすること。

3. 方法

半構成的面接法による質的記述的研究。対象者は、病床数300～700床程度の急性期もしくは高度急性期機能の病院の看護部長で、看護部長経験3年以上の者とした。分析はGrounded Theory Approachの継続的比較分析法を用いた。

4. 倫理的配慮

東京女子医科大学倫理委員会の審査を受けて実施した。

5. 結果

同意が得られた看護部長11名からデータを得た。分析の結果、「目指す看護の達成に向けた看護部長としての実践」の構造が明らかになった。この構造は4つの大カテゴリー《》、8中カテゴリー〈〉、19小カテゴリー、60コードから構成されている。

目指す看護の達成に向けた看護部長としての実践は、〈看護の本質からぶれない〉、〈ポジティブな姿勢を貫く〉、を《看護部長としての実践の基盤》としていた。これらの基盤を基にして、〈客観的な視点を武器にする〉、〈現場主義を貫く〉という《看護部長としての実践を支える硬軟多彩な手法》を織り交ぜながら丁寧な実践をしていた。その上で、看護部長が〈任せて育てる〉姿勢で、〈主体性を引き出す〉ことから、目指す看護の達成に向けて現場で看護をする人材を育てる《主体的に看護に取り組む人材の育成》をしていた。これらの実践は、将来を見据えて先を読み、そして“今”何をするかという〈時を読む〉こと、看護部から組織全体、更に地域へと広がる〈空間を読む〉ことという、

《時間的・空間的に広がる認識をもとにした実践》であった。

6. 考察

目指す看護の達成に向けた看護部長としての実践は、看護と看護師である一人ひとりを大切にして本質を捉え追及することを軸とし、ポジティブな姿勢を貫くという基盤を持っていた。この立ち戻る基盤が明確で盤石であることから、先を読み、空間的にも広がる実践がより自由度の高い創造的な実践へと繋がっていると考えられた。また、実践には様々な経験や学びで培われた硬軟多彩な手法が用いられ、これらを駆使することで創造的な実践が促進されていると考えられた。そして看護部長は、当事者意識を持って主体的に取り組む事ができる次世代の看護師・看護管理者を育成することに、責任とその覚悟を持って臨んでいると考えられた。

そして、次世代の看護管理者の育成に必要な視点について以下の4点が示唆された。看護師が日々の看護実践を語り意味づけ看護実践の本質を探究すること、研修で学修した概念と現場で起きている事象をOJTで意図的に繋げて考えるスパイラル学習をしていくこと、部署外や組織外に視野を広げる経験を積む機会を作り活用を促すこと、看護部長の先を読む思考を知る機会として対話の機会をもつこと、である。

論文審査結果の要旨

本研究は看護部長の実践について、組織の運用・発展に取り組む観点から明らかにした研究である。看護部長の実践が言語化されたものであり、次世代の看護管理者の育成への示唆を示すだけでなく、協同する多職種にもアピールするものであると考える。本研究を遂行するなか、看護部長に対する先行研究をレビューし、まとめるといった活動も行っており、本研究の位置づけを明らかにしていた。その論文は令和2年3月に発行されている（東京女子医科大学看護学会誌）。

研究能力の研鑽について励んでいたこと、また研究対象者となる看護部長へのアプローチについても工夫がされており本研究のための貴重なデータを収集することができたことは評価できる。臨床実践の質の向上および病院組織の変革に寄与できる研究成果が得られており、博士論文として適当と思われる。

以上、本学位申請論文審査の結果、合格とする。